60年、そしてこれからも みんなで創る 市民元旦マラソン

来年の大会で、市川市民元旦マラソンは記念すべき60回目を迎えます。昭和26年以来、年の初めに、市民と行政が手を携えて続けてきた、全国に誇れる行事です。今やスポーツ・イベントであると同時に、市川の風物詩として、文化の一端を担うまでになったこの大会を、共に盛り上げてきた人たちの声と共に振り返ります。みなさんも、心新たに市川の街を走り抜けてみませんか。

継続の陰には、家族と仲間の協力がありました

この大会は、元旦に開かれるということに、意味があります。一年の計は元旦にあり、と言うでしょう。この日スタートすることで、今年もいい仕事をしよう、健康でよい年にしようと、心新たに新しい年を迎えることができるのです。参加者が体力に応じてコースを選べるのも、完走する歓びを味わっていただきたいからです。と同時に、県を代表する選手を輩出するなど、スピードを競う側面も持っているのが特徴です。

事故もなく続けてくることができた長い歴史の陰には、体育指導委員連絡協議会の皆さんをはじめ、手弁当で関わった大勢の人の情熱があります。寒い中、街角に立ち、邪魔だと怒鳴られながら、自動車の運転手に頭を下げたことなども、今となっては良い思い出です。それも共に頑張る仲間がいたから。笑い声の絶えないチームワークの良さは、参加者にも伝わったのではないかと思います。

そして忘れてはならないのが、家族の協力ですね。早朝から準備をしますので、家族は、正月にはいないものだとあきらめています。女性のボランティアの皆さんは、家庭との両立が特に大変でした。私たちも、元旦マラソンが終わってやっと、おせちを食べる気持ちになれるのです。

60年は一つの節目ですが、この素晴らしい大会を後輩に引き継いでいくのも私たちの役目です。「継続は力なり」この言葉を信じて、これからもこの素晴らしい大会が市民の誇りと共に、続けられ広がっていくことを願っています。

写真右から
清水輝和さん　実行委員会委員長
伊藤喜之さん　市体育協会会長
田村三雄さん　市体育協会監事
間藤良男さん　市陸上競技協会会長

21年間連続出場!元旦から全力で走ることに意味があります

青山 剛さん
トライアスロンのプロ選手から、オリンピック選手を指導するプロコーチに転身。現在は子ども、初心者ランナーまで幅広く指導を手掛ける。チームアオヤマ・代表。（社）日本トライアスロン連合強化チーム・指導者養成委員。行徳在住。

毎年、全力で走ります。力を出しきることに意味があるんです。そのためには、病気になったり、故障したりできません。中学2年生から21年間、休まず元旦マラソンに出場してきたことは、ずっと健康で過ごした証だと言えます。また、学生時代の恩師に、毎年成長した姿をお見せすることも、大きな励みになってきました。優勝したのは1度だけですが、私にとって大切なのは順位より、出場し続けること。座右の銘である「Keep On Running」そのものと言える大会が市川市民元旦マラソンです。起伏の激しいコースなので、タイムはなかなかのぞめません。でも、スタートもゴールも陸上競技場という他にない環境は、満足感を味あわせてくれます。

自己流にたよらず基本を知ることで、誰でも、もっと楽しく走ることができるようになります。現在、浦安市総合体育館で故障なく走り続けるためのセミナーを開催しています。将来は私を育ててくれた街を盛り上げるためにも、元旦マラソンに向けたセミナーをぜひとも市川で開きたいですね。

降っても晴れても仲間と共に 市川マラソンクラブ

午前7時、国府台陸上競技場。小雨交じりにもかかわらず、おはようございますと続々とメンバーが集まってきます。このクラブからは元旦マラソンで多くの入賞者が輩出されています。また、メンバーの一人高山安正さんらが実行委員会に働きかけ、ウォーキングの部設置を実現させるなど、層の拡大にも貢献してきました。元旦マラソンの参加ランナーらによってクラブが設立されたのは、今から38年前の昭和46（1971）年。「当時は走る人も少なくて、周囲から理解されませんでした」と、会長の福田日出之助さん。しかし、それぞれのペースを尊重し、和を大切にしてきたことで、現在は100人近い大所帯となりました。最高齢は、95歳の高橋川八さん。元旦マラソンには昭和59（1984）年から連続出場し、次の大会も2kmの部にエントリーする予定です。共に走る仲間の存在が、健康を保つ秘訣にもなっているようです。

練習は毎週、日曜日。1時間ほど汗を流した後、さらに江戸川土手を一回りしてくる人もいるのだとか。元旦マラソンの直前には実際にコースも試走するそうです。とにかく走ることが好きで仕方のない面々は、60回大会に向けてますます気合いが入っています。

会長の福田日出之助さん（左）と、59歳の時にマラソンを始めたという95歳の高橋川八さん。二人ともホノルルマラソン出場経験者。

昭和33年　市川駅からスタート

昭和43年　ゴールの葛飾八幡宮が目前

昭和54年　八幡中央通りをひた走る

昭和62年　不二女子高校付近を激走

この20年来、スタート・ゴールは陸上競技場に
（写真は平成20年撮影）

元旦マラソンのあゆみ

昭和23（1948）年　市立国府台中学校（現・県立国府台高校）陸上競技の冬季訓練が始まる。コースは、国府台～柴又帝釈天間を折り返す1万2千メートルだった。元旦マラソン誕生へとつながる。
昭和26（1951）年　市体育協会創立を機会に第1回大会を開催。市川小学校～柴又帝釈天往復1万メートル。
昭和28（1953）年　京成小岩の踏切の関係で、市川駅から中山往復に。主催が、市と体育協会になる。
昭和39（1964）年　交通事情により、八幡中央通り～大柏往復1万メートルにコース変更。この年、東京五輪。聖火リレーが市内を通過。
昭和48（1973）年　千葉国体（若潮国体）開催。
昭和51（1976）年　種目を変更。体力に応じたコースを選ぶ健康増進の大会へ。
昭和60（1985）年　女子5キロの部を新設。
昭和63（1988）年　大柏地区で開催。
昭和64（1989）年　ファミリーの部を新設。
平成2（1990）年　冨貴島小学校付近で開催。
平成3（1991）年　スポーツセンター周辺で開催。
平成7（1995）年　女子10キロの部を新設。
平成12（2000）年　ウォーキングの部を新設。
平成22（2010）年　第60回大会。ゆめ半島千葉国体開催。

参加者募集

人 市内在住・在勤・在学の小学4年生以上の方。（市川市体育協会加盟団体登録者・いちかわ歩こう会登録者および市内の学校の卒業者は市外の方でも参加可）
料 600円（ナンバーカード〔ゼッケン〕代・保険料・返信用はがき代など含む）
※申込後または天災・荒天などで中止の場合の返金はしません。

申 11月20日（金）までに申込書に必要事項を書き、郵便局で申し込み（手数料120円）
種目 10km男子・女子、5km男子・女子、2km男子・女子、ファミリー2km、ウォーキング4.5km
問 ☎373-3112スポーツ課

申込書配布場所
市役所内広報スタンド・国体担当室、行徳支所・大柏出張所、スポーツセンター、塩浜市民体育館、信篤市民体育館、各公民館・施設、市内各駅の広報スタンド